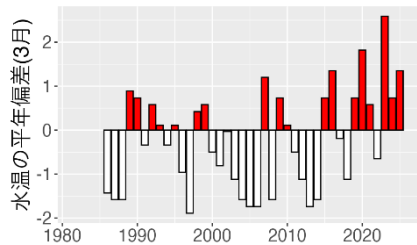
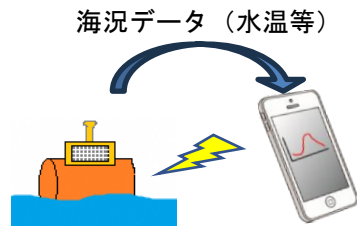


## 背景・目的

- 近年はワカメ養殖時期（10～4月）の水温上昇が継続  
養殖ワカメの生育不良や収穫期の短縮に伴う収量低下が懸念される。
- 海況情報をリアルタイムに把握して養殖管理を行うなど、  
海況変動に適応できる養殖技術の開発が求められている。
- ワカメ種系沖出し時期や収穫適期を観測値に基づき漁業者に周知し、養殖技術向上に努める。



ワカメ養殖期間の水温は上昇傾向



海況リアルタイム把握イメージ

## 研究内容・目標

### （内容）

- 自動観測バイデータに基づく養殖漁場の適性評価
- 養殖収量や品質に及ぼす漁場環境の影響評価
- 温暖化に対応した養殖技術開発のための、水温予測技術の開発

### （目標）

- 県内3漁場のワカメ養殖への適性評価
- 養殖収量や品質に影響を与える要因の解明
- 気温予報を利用した漁場水温予測技術の開発  
※気象庁が開発した沿岸水温予測モデルを利用

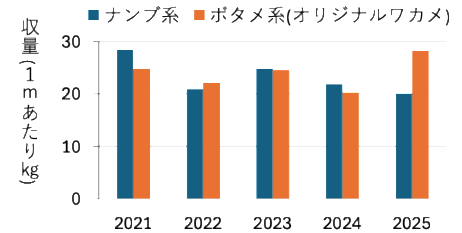


## 研究成果

- ワカメ養殖の適性評価（県内3漁場）
  - ・水温/塩分：いずれもワカメ養殖に適した条件
  - ・濁度：高濁度による生育不良の可能性（岩館, 金浦）

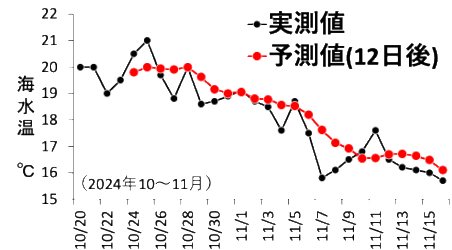
### ○養殖収量や品質に影響を与える要因の解明

- ・水温上昇が続く近年も収量は高位安定
- ・ワカメ品質は環境より系統の影響を受ける？
- ・ボタメ系は高水温下で収穫適期が早い傾向？



### ○気温予報を利用した漁場水温予測技術の開発

- ・予測モデルで8～12日後の平均海水温を算出
- ・種系の沖出しや収穫等の適期を漁業者に周知する際は12日後の予測値を提供
- ・海況変動が大きくても養殖作業を計画的に進められるよう支援



## 技術普及に向けた取組

- 市場価値の高い養殖ワカメ系統の普及
  - ・メカブが大きく柔らかい養殖用ボタメ系統の確立
- 水温予測精度の向上と情報発信体制の構築
  - ・種系沖出し（10月）と収穫（2～3月）の予測精度向上
  - ・県水産情報サイトを利用した情報発信